

「医療データの統合解析環境の構築に関する検討」研究

1. 研究の対象

2012 年 4 月以降に大阪大学医学部附属病院、大阪国際がんセンター、大阪急性期・総合医療センター、大阪医療センター、市立東大阪医療センター、大阪労災病院を受診した方

2. 研究目的・方法

大阪大学医学部附属病院と連携する大阪国際がんセンター、大阪急性期・総合医療センター、大阪医療センター、市立東大阪医療センター、大阪労災病院では電子カルテに保管された診療情報の中から、共通のコード体系、共通のデータ構造を持つデータベース（共通データウェアハウス）を構築します。これをネットワーク回線で接続し、センター側から共通の検索集計処理プログラムを配信し、各医療機関で処理し、検索集計結果をセンター側に返す方式でのシステムの構築を目指します。

本研究では、秘密分散、秘密計算処理により、現場の課題となる検索集計処理が正しく、許容できる時間内に処理できるかを評価することを行い、安全、かつ、迅速に大規模なデータを解析できる方法を研究いたします。

この研究では、個人情報に配慮し、暗号化された状態で集計や統計処理を行うことができる「秘密計算」技術が実際の集計にどのくらい時間がかかるか、また、正確に集計できているか、等の検証を行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・ 患者基本情報（仮名化患者 ID、生年月日、性など）
- ・ 診療報酬レセプト情報・DPC（EF ファイル、様式 1）
（病名、処方、注射、入院、手術術式、検査内容など）
- ・ 電子カルテデータウェアハウス（DWH）から抽出した検体検査結果、画像レポート

4. 外部への試料・情報の提供

共通データウェアハウスから、秘密計算処理用のデータベースファイルを取り出し、これを、外部の秘密計算用システム（エヌ・ティー・ティーコミュニケーションズ（株）が提供するデータセンター）に送り出し、ここで、秘密分散方式による情報管理と秘密計算による解析処理（株式会社情報通信総合研究所が技術提供）を行います。秘密分散処理により保存されるデータは暗号化され、秘密計算により、これらのデータをそのままでは解読できない状態のまま復号することなく、検索集計が可能となります。

5. 研究組織

大阪大学医学部附属病院 医療情報学 武田理宏

大阪国際がんセンター 医療情報部 西村潤一
大阪急性期・総合医療センター 医療情報部 森田孝
大阪医療センター 病院長 松村泰志
市立東大阪医療センター 病院長 中隆
大阪労災病院 病院長 樂木宏実
株式会社情報通信総合研究所 代表取締役社長 神谷 直応
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 櫻井陽一

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15
大阪大学医学部附属病院 医療情報部
部長：武田 理宏
電話番号：06-6879-5900（直通）

研究責任者：

大阪大学医学部附属病院 医療情報部・部長 武田 理宏

研究代表者：

大阪大学医学部附属病院 医療情報部・部長 武田 理宏